DISCUSSION PAPER No.150

# 博士課程での研究指導状況とインパクト

## －「博士人材追跡調査」による総合的な分析－

# Impact of PhD Supervising Setting: A Comprehensive Analysis based on "Japan Doctoral Human Resource Profiling, JD-Pro"

2017 年 7 月

文部科学省　科学技術・学術政策研究所
第1調査研究グループ
柴山　創太郎　　　小林　淑恵

【執筆者】

柴山 創太郎　ルンド大学 経済経営学部
Sten K. Johnson アントレプレナーシップセンター 上級講師
文部科学省科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ 客員研究官

小林 淑恵　文部科学省科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ 上席研究官

【Authors】

Sotaro SHIBAYAMA　Senior Lecturer
Sten K. Johnson Centre for Entrepreneurship, School of Economics and Management, Lund University

Affiliated Fellow
1st Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT

Yoshie KOBAYASHI　Senior Researcher
1st Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT

本報告書の引用を行う際には、以下を参考に出典を明記願います。
Please specify reference as the following example when citing this paper.

柴山創太郎・小林淑恵(2017) 博士課程での研究指導状況とインパクトー「博士人材追跡調査」による総合的な分析ー, *NISTEP DISCUSSION PAPER*, No.150, 文部科学省科学技術・学術政策研究所.

DOI: http://doi.org/10.15108/dp150

Sotaro SHIBAYAMA and Yoshie KOBAYASHI (2017) "Impact of PhD Supervising Setting: A Comprehensive Analysis based on 'Japan Doctoral Human Resource Profiling, JD-Pro' " *NISTEP DISCUSSION PAPER*, No.150, National Institute of Science and Technology Policy, Tokyo.

# 博士課程での研究指導状況とインパクトー「博士人材追跡調査」による総合的な分析ー

ルンド大学 経済経営学部 Sten K. Johnson アントレプレナーシップセンター　柴山 創太郎
文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第１調査研究グループ　小林 淑恵

## 要旨

フロンティアの知識労働者は、大学の研究室における博士の研究指導(トレーニング)により供給されており、現代の知識基盤社会において不可欠なものである。それにもかかわらず博士の研究指導に関する理解は、大学の研究室内部へのアクセスが限定的なため、これまで十分になされていなかった。また博士課程修了者の初期キャリアの把握が難しいことから、博士課程における研究指導の効果を評価することは困難であった。本研究では日本の大学院博士課程を修了した約 5,000 人のコホート調査である「博士人材追跡調査」のデータを用いることで、これまでの研究上の限界を超え、大学の研究室における研究指導とその効果を明らかにすることを試みた。

結果は、1）博士課程修了者のキャリア選択について幾つかの変数をコントロールしてなお、指導教員の指導頻度が高いことが、学位取得率、研究と仕事の関連度を高める、2）所属大学のその他の教員の指導頻度が、論文や賃金のパフォーマンスを高める、3）所属大学以外の教員の指導が学位取得率やアカデミック・キャリアの選択率を高める、4）教員でない者（先輩・ポスドク等）の指導頻度がアカデミック以外のキャリア選択率を高める、等が明らかになった。1991 年からの大学院の量的整備により教員１人当たりの学生数が増加し、また教育研究以外の組織運営や研究費獲得に伴う申請・評価業務の増加により教員の負担が増している。本研究からも明らかになったように、様々な指導者が高い頻度で博士学生の研究指導に当たることが、博士のその後のキャリアや博士課程満足度にプラスの効果をもたらすことから、指導教員に代わる指導者や、指導教員を支える専門能力を有するスタッフの整備が、今後一層、必要となって来るだろう。

# Impact of PhD Supervising Setting: A Comprehensive Analysis based on "Japan Doctoral Human Resource Profiling, JD-Pro"

Sten K. Johnson Centre for Entrepreneurship, School of Economics and Management, Lund University
Sotaro SHIBAYAMA

1stPolicy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT
Yoshie KOBAYASHI

**ABSTRACT**

PhD training in academic labs offers the foundation for the production of frontier knowledge workers, indispensable for the modern knowledge-based society. Nonetheless, our understanding on PhD training has been insufficient due to limited access to the inside of academic labs. Furthermore, early careers of PhD graduates are often difficult to follow, which makes the evaluation of training outcome challenging. To fill in these limitations, this study aims to illustrate the settings of PhD training in academic labs and examine their impact on several aspects of training outcome, drawing on "Japan Doctoral Human Resource Profiling", a national survey of a cohort of 5000 PhD graduates from Japanese universities.

Our regression analyses controlling for several variables indicate the following results: (1) PhD students who received frequent instruction by their official supervisors are likely to successfully earn degrees and engage in jobs related to their dissertation subjects; (2) frequent supervision by internal faculty members is associated with high performance both in academia (based on publications) and in industry (based on wage rates); (3) frequent supervision by external faculty members is associated with successful degree attainment and academic career choice; and (4) frequent supervision by non-faculty members (e.g., postdocs and senior students) is associated with non-academic career choice. The expansion of postgraduate education since 1991 has increased the number of students per supervisor, which has added to the workload of faculty members, along with other duties such as administration and fundraising. The result indicates that frequent supervision by multiple faculty members improves career outcomes and students' satisfaction, suggesting the need for secondary instructors as well as expert staff supporting faculty members.

# 目次

# 概要

## 博士課程での研究指導状況とインパクトー「博士人材追跡調査」による総合的な分析ー

現代社会において我々が直面する社会的課題の解決には、科学的知識が必要とされており、知識牽引型社会という傾向は益々強まっている。そのため知識フロンティア人材の育成は、持続可能な社会において一層重要性を増している（Bozeman et al., 2001)。にもかかわらず、大学等のアカデミアにおける高度知識人材の育成は、現実の社会的ニーズを十分に満たしていないと批判されることが多い(National Research Council, 1998；Cyranoski et al., 2011)。

このようなアカデミアにおける人材育成の課題は、教育政策と科学政策の間のギャップに起因している部分がある。また近年では、政策の説明責任（アカウンタビリティー）を重視するあまり短期的評価のみを強調し、人材育成のような長期的利益や効果が見落されがちになるという傾向もある（Hackett, 1990)。

そこで本研究では、日本の博士課程修了者のコホート調査である「博士人材追跡調査」を用い、教育政策と科学技術政策の間を繋ぐことを試みた。同調査は 2014 年に実施され、2012 年度中に日本の博士課程を修了した者を母集団としている。サンプル数は5,052で、回収率38.1%である。大学院研究室における研究指導状況（トレーニング）とその後のキャリアの状況を同時に知ることが出来るデータとなっている。研究室において誰がどのくらいの頻度で指導するのかという「指導状況」を測定し、それが博士号取得を含むキャリア選択、その後のパフォーマンス、博士課程満足度等にどのように影響を及ぼすかを分析した。

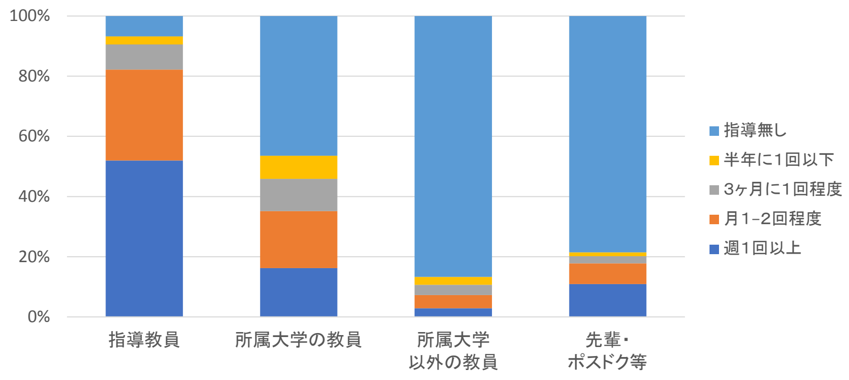
サンプルの構成は、学生種別で見ると 15%が課程学生、34%が社会人学生、15%が留学生である。また、博士課程での専攻分野は理学 17%、農学７%、保健 29%、人文 8%、社会 9%、その他 6%となっている。平均年齢は 38 歳、女性は全体の 28%である（回答数ベース）。

本研究ではまず指導者の組み合わせと指導の頻度によって、「指導状況」を規定している。予想通り、多くの学生は所属大学の指導教員によって指導されているが、一部には所属大学以外の教員や、教員以外（先輩・ポスドク等）による指導を受けている者や、指導者がいないという場合もある。

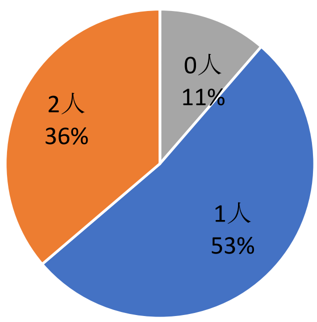
概要図表１は指導者別の指導頻度を示したものである。博士課程学生の 52%は指導教員から週に１回以上の頻度で指導を受けている。また所属大学のその他の教員から少なくとも月 1、2 回以上の指導を受けている者は 35%、所属大学以外の教員から少なくとも半年に 1 回以上の指導を上受けている者は 13%、先輩・ポスドクといった教員以外から指導を受けている者は 21%いることが分かる。また指導頻度を見ると、概要図表 2 のように月 1 回以上の頻繁な指導に関わった教員の数が 1 人の場合は 53%､2 人の場合は 36%であり､月 1 回以上の指導がない者は 11%となっている。

基本統計量と回帰分析のどちらの結果からも、博士課程学生の属性による「指導体制」の違いが明らかになっている。まず社会人学生の場合は課程学生と比較して、指導教員や先輩・ポスドクといった教員以外の指導が少なく指導頻度も低い。外国人学生は指導教員や所属大学のその他の教員によって指導を受けることが多いが、外部の教員による指導は少ない。保健(医学・歯学・薬学・看護)分野の学生は、指導教員によって指導されるよりも、所属大学のその他の教員による指導頻度が高い。また人文・社会系も指導教員による指導頻度は低い。国内論文シェアで見た大学グループ別にみると、研究力の高い大学では指導教員による指導が少なく、先輩・ポスドクといった教員以外の指導頻度が高くなっている。

### 概要図表１　指導者と指導頻度




### 概要図表２　指導者の人数




注）月１回以上の指導に関与した教員数（非教員は除く）

本研究では、これらの指導体制がどのように職業選択や博士課程の満足感に影響しているかについて検証を行っている。分析の結果は概要図表３に纏めている。まず指導体制によるキャリア選択に関連した影響を見ている。キャリアの第１段階としての学位の取得であるが、指導教員による頻繁な指導は博士課程学生の学位取得に明らかにプラスの影響を与えている。

次に博士のアカデミック・キャリアの選択であるが、指導教員、または所属大学以外の教員の頻繁な指導を受けた場合に、アカデミアに進路を取る傾向にある。また先輩やポスドクといった教員以外の者から頻繁に指導を受けた場合に、アカデミア以外のキャリア選択率を高める。研究と仕事の関連度については、指導教員の指導頻度が高いか、あるいは複数の教員による指導の場合に、関連の強い仕事を得ているという結果を示している。

概要図表３　指導体制の影響[a]

| 説明変数 ＼ 被説明変数 | | 学位取得 | アカデミック・キャリア | 研究と仕事の関連度[c] | 論文数[d] | 賃金率[e,f] | 博士課程満足度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 各担当者の指導頻度 | 指導教員 | ++++ | (+)[b] | +++ | | | ++++ |
| | 所属大学の教員 | + | | | + | ++ | ++++ |
| | 所属大学外の教員 | +++ | +++ | | | | ++++ |
| | 先輩・ポスドク等 | | － | | | | ++++ |
| 指導教員数[g] | 0 人（vs. 1 人） | －－－－ | － | | | | －－－－ |
| | 2 人（vs. 1 人） | | | ++ | ++ | +++ | ++++ |

a）表内の各記号は、本編 Table3 Model3/4（学位取得）、Table4 Model1/3/4（アカデミック・キャリア）、Table5 Model3/4（研究と仕事の関連度）、Table6 Model5/6（論文数）、Table7 Model3/4（賃金率）、Table8 Model1/2（博士課程満足度）から、係数の符号と有意水準を示している。+/-：p ＜ .10；++/--：p ＜ .05；+++/---：p ＜ .01；++++/----：p ＜ .001。
b）学位取得への効果を介した間接効果
c）アカデミック・キャリアを選択した修了生のみ。
d）国内論文シェアの高い、大学第 1 グループのみ。
e）国内論文シェアの高い、大学第 1・2 グループのみ。
f）非アカデミック・キャリアを選択した修了生のみ。
g）月 1 回以上の指導に関与した教員数。

次に、指導体制による博士のパフォーマンスへの影響を検証している。雇用先がアカデミアの場合に論文数で見ると、研究力の高い大学でのみ、所属大学の教員による指導頻度が高い場合に論文数が増える傾向にある。非アカデミアの場合、論文数ではパフォーマンスを測るのに適切ではない可能性があるため、代理変数として賃金率を用いている。結果はアカデミアの場合と同様で、研究力の高い大学で、所属大学のその他の教員や複数の教員による指導が、賃金率と正に相関することを示している。

最後に、指導体制による博士全体の満足度への影響を見ている。研究分野に関わらず、指導頻度が高い場合に、博士課程満足度を有意に上げることを示している。また指導者の数が多い場合に満足度は高く、指導者が 1 人以下の場合に満足度が低いことが明らかになっている。

1991 年からの大学院の量的整備により教員 1 人当たりの学生数が増加し、また教育研究以外の組織運営や研究費獲得に伴う申請・評価業務の増加により教員の負担が増している。本研究からも明らかになったように、様々な者が高い頻度で博士学生の研究指導に当たることが、その後のキャリアや博士課程満足度にプラスの効果をもたらす。指導教員に代わる指導者や、指導教員を支える専門能力を有するスタッフの整備が、今後一層、必要となるだろう。

# 本編

## 1. Introduction

The modern society is increasingly becoming knowledge-driven and major challenges our society faces today require solutions with scientific expertise, and thus, the development of human capital at the knowledge frontier is crucial for the sustainability of our society (Bozeman et al., 2001). The development of knowledge workers typically takes the form of postgraduate education, in which research training (*academic training*, hereafter) plays an essential role. Academic training is a significant investment that costs students several years or possibly longer and supervisors considerable time and efforts (Stephan, 2012). Nevertheless, the contemporary academic training practices have been criticized, for example, for failing to meet changing societal needs and for producing excessive PhDs (National Research Council, 1998; Cyranoski et al., 2011).

These problems in academic training are partly attributable to a gap between (mass) education policies and science policies. Further, recent policies have stressed accountability that is often translated into short-term and merit-based evaluation, and a relatively long-term payoff from academic training tends to be overlooked (Hackett, 1990). A similar gap exists in literature between studies on higher education and those on knowledge production. Though academic career design has been a popular subject (e.g., Allison and Long, 1990; Geuna, 2015; Stephan, 2012), early careers are relatively understudied. Among others, empirical difficulty in accessing two types of data has been compromising our understanding on academic training. First, prior studies had poor access to the inside of academic labs where training takes place. Ethnographies in sociology of science have illustrated the details of lab operation (Campbell, 2003; Delamont and Atkinson, 2001; Delamont et al., 1997 ; Salonius, 2007), but their implications are restricted to certain lab contexts. Second, tracing early careers of academics is often challenging. A few countries have implemented surveys to follow the careers of PhD graduates; such as Science and Engineers Statistical Data System (SESTAT) in the USA and Destinations of Leavers from Higher Education (DLHE) in the UK. These systematic efforts have contributed to our understanding on early careers of academics (Agarwal and Ohyama, 2012; Roach and Sauermann, 2010). Nonetheless, career data and training data have rarely been integrated, and thus, we still have insufficient understanding on how academic lab training leads to the development of S&T human capital.

The objective of this study is to address these gaps with the national survey of Japanese PhD graduates, which inquired into both PhD training settings and traced their careers. The population of the survey is a cohort of PhD students who graduated from Japanese universities in 2012, and 5,052 responses were collected in 2014. The result finds that supervisory settings -- a supervising team and frequency of supervision -- influence the PhDs' career decisions, scientific and economic performance, and their level of satisfaction on the PhD program.

The remainder of this article is organized as follows. Section 2 reviews previous literature. Section 3 overviews the Japanese postgraduate education system. Section 4 explains our data. Section 5 presents the results. Section 6 discusses the results and implications.

## 2. *Literature Review*

Postgraduate education programs employ various education approaches, usually involving 1) a general component that provides students with knowledge commonly needed across the discipline, often through mass teaching, and 2) a specific component that aims to develop knowledge and skills concerning a certain area of expertise specific to the lab through a research project, or *academic training*. Prior literature on higher education has paid relatively limited attention to the latter compared to the former. This is partly because of empirical difficulty in observing the inside of labs, where academic training occurs. A lab consists of a team of scientists including a supervising professor and junior members including students (Delamont and Atkinson, 2001; Latour and Woolgar, 1979; Owen-Smith, 2001). The core part of academic training employs the apprenticeship model, where students are tasked to solve research questions as a member of a research project under the supervision of professors (National Research Council, 1998). Some anthropological studies did investigate the inside of academic labs in depth, illustrating how academic science operates in specific labs in a great detail (Delamont and Atkinson, 2001; Delamont et al., 1997; Knorr-Cetina, 1999; Latour and Woolgar, 1979; Salonius, 2007), but academic training was not necessarily of their primary interest and a general picture is lacking (Shibayama et al., 2015). Scientometric techniques have been developed to identity student-supervisor relationships (Lariviere, 2012; Morichika and Shibayama, 2016), but they cannot reveal the details of the interpersonal relationships.

Tracing postgraduate careers of students presents another challenge. While identifying established academics is fairly feasible thanks to increasingly available career data of academics (Gaughan and Bozeman, 2002), early careers are still difficult to identify because academic jobs in early stages tend to change frequently and be made insufficiently public. Moreover, if graduates are employed outside academia, their career information is usually kept private, and even if it is publicly available, linking it with education record poses another challenge. Addressing these difficulties require systematic and perhaps authoritative efforts for data collection. Indeed, a few national surveys have been implemented, such as SESTAT in the USA and DLHE in the UK, and contributed to our understanding on higher education systems. For example, Agarwal and Ohyama (2012) used SESTAT to investigate the link between scientists' ability, preferences, and their career development. Roach and Sauermann (2010), drawing on Survey of Doctorate Recipients (SDR) in the USA, predicted the innovative performance of PhD graduates based on their motives. Nevertheless, the focus of these surveys is to follow postgraduate careers rather than to understand pre-graduate conditions. To link the two elements, therefore, scholars have needed to rely either on additional data sources or on their original surveys in smaller scales.

Addressing these issues, the current study aims to investigate the impact of academic training at three aspects of training outcome such as PhD graduates' performance, their career choice, and their subjective evaluation on training programs. The third aspect has been relatively well studied. A line of higher-education literature evaluated PhD programs from students' perspective in various dimensions (e.g., Marsh et al., 2002). Among others, Morrison et al. (2011), based on a survey of PhD graduates in Social Sciences in the USA, found that the quality of advice from dissertation supervisors is associated with students' evaluation on the excellence of PhD programs. Similarly, Mainhard et al. (2009) suggested that the availability of PhD supervisors is a key determinant of the perceived quality of PhD supervision. These studies have confirmed that lab settings and the relationship between students and supervisors play a critical role, but they tend to be detached from the impact of training on career development and performance.

The link between higher education and later career development has been studied in the literature on sociology of science and education and on science policies (e.g., Geuna, 2015; Long et al., 1979). For the above-mentioned reasons, however, they have rarely examined the detail of supervisory settings but relied on more observable factors. Among others, many studies found that the prestige of degree-awarding departments determines the destination of academic careers (e.g., Baldi, 1995; Crane, 1965; Debackere and Rappa, 1995). Long et al. (1979), analyzing postgraduate careers of biochemical PhDs in the US, also found that the prestige of the first academic jobs is significantly influenced by the performance of PhD supervisors in addition to the prestige of the degree-awarding departments.

Similarly, studies in sociology and science policies have been studying the link between higher education and performance and found the organizational prestige and supervisors' performance to be strong predictors of students' postgraduate performance (Allison and Long, 1990; Geuna, 2015; Long and McGinnis, 1985). A line of literature on the organizational design of labs, either in industry or in academia, has also been investigating various organizational factors such as prestige, age, and size as determinants of performance (e.g., Heinze et al., 2009; Pelz and Andrews, 1966). Nevertheless, prior literature has rarely looked into the detail of supervisory settings with few exceptions (Shibayama et al., 2015).

## *3. Context of Academic Training in Japan*

In Japan, approximately 700 universities offer four-year undergraduate programs, among which approximately 400 universities offer PhD programs. They are grouped into three types based on governing bodies: national, regional (of prefectures or cities), and private. Among the three types, national universities are the main player of scientific research and academic training while most private universities focus on undergraduate education. For example, national universities accounted for 75% of

12,000 PhD degrees awarded in 2013.[1]

Most postgraduate education programs in Japan consist of a two-year master program and a three-year PhD program.[2] A majority of graduate students decide whether to proceed to a PhD program during a master program (Kato et al., 2012). Once students are admitted to PhD programs, the majority of students graduate with limited delay. For example, 50% of the students who enrolled in Science and Engineering PhD programs in 2008 graduated in three years, 79% within four years (plus one year), and 91% within six years (plus three years).[3] Graduation in the Japanese PhD system does not necessarily mean that students have successfully earned degrees. That is, students can choose to graduate PhD programs as long as they meet certain credit conditions, and after graduation they can apply for degrees as soon as completing dissertations. In fact, 13% of PhD graduates in our sample did not have degrees at the time of the survey. This is relatively rare in Science, Technology, Engineering, and Mathematics (STEM) fields but fairly common in Humanities, Arts, and Social Sciences (HASS).

In most PhD programs, each PhD student is officially under the supervision of a single professor. In practice, however, there is a significant variation in the supervisory settings. The variation is attributed to a few sources, including the setting of the official supervisor's lab and the policies or the environment of the department that offers the PhD programs. As for the latter, multiple faculty members in the same department usually participate in the dissertation evaluation committee, and they sometimes play a proactive role in supporting PhDs from early program stages. As for the former, a lab usually involves other students and staff, who can also participate in the supervision of students. Particularly, national universities in STEM fields tend to adopt so-called chair system modelled on the German system, where a senior professor organizes a lab and supervises not only students but also junior professors. In this hierarchical structure, the supervision of students is often in part or whole delegated to junior professors, postdocs, and even senior students. The chair system sometimes causes organizational barriers between labs, restricting students' interaction with researchers in other labs.

PhD programs in Japan used to be mainly meant to train academic researchers, so most students enrolling in PhD programs pursued academic careers. However, around the 1980s and 1990s, the postgraduate education system was repositioned for the training of knowledge workers in general to satisfy diversifying societal needs (Ehara and Umakoshi, 2004: Ch.3). A series of system reform increased the admission quota for postgraduate programs, and many postgraduate programs were newly opened.[4] It also allowed candidates who already have jobs to enroll in PhD programs and pursue degrees without quitting the jobs often in part-time. This so-called "professional" PhD has become common in applied fields such as

[1] Source: School Basic Survey (http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm).

[2] A few universities offer 5-year integrated PhD programs. PhD programs in some fields take four years, such as in Medicine, Veterinary sciences, and Pharmacy.

[3] The statistics about students are obtained from School Basic Survey.

[4] Until a reform in 2005, the government controlled the admission quota of postgraduate courses in Japanese universities (MEXT, 2015).

Medicine and in Social Sciences. Recent years have also seen an increasing number of international PhDs. Overall, the number of PhD students was doubled in 1991-2000. The rapid expansion of the postgraduate system, however, has been heavily criticized for compromising the quality of PhD training. In addition, employment conditions for recent PhD graduates are not necessarily sufficiently stable (Cyranoski et al., 2011), while increasing employment of PhDs in industry is consistent with the policy direction.[5] Consequently, academic careers have become a less popular option for students, which partially contributed to a recent decline in PhD enrolment (Morichika and Shibayama, 2016).

## 4. Data and Method

### 4.1. Survey data

This study draws on a national survey, Japan Doctoral Human Resource Profiling (JD-Pro). The population of JD-Pro was the entire cohort of 16,445 PhD students who graduated from PhD programs in Japanese universities in the academic year of 2012. It covered all disciplines and all Japanese universities that offer PhD programs. The survey was carried out in 2014, 1.5 years after their graduation. JD-Pro included several lines of questions concerning PhD training programs, employment after graduation, research activities, and so forth. This study particularly draws on the questions about supervisory settings for PhD training and several outcome measures. The survey was conducted both on a web-based system and by mail and collected 5,052 effective responses (response rate = 38.1%). Kobayashi (2015) reports the detail of the survey.[6] The sample consists of international PhDs (15%), professional PhDs (34%), and regular PhDs (52%); in the fields of Science (17%), Engineering (24%), Agriculture (7%), Health (29%), Humanities (8%), Social sciences (9%), and others (6%); and in Univ tier = 1 (38%), 2 (17%), 3 (5%), and 4 (20%). The mean age is 38, and 28% are female.

### 4.2. Measures

#### 4.2.1. Supervisory setting

The survey inquired into a few questions regarding PhD supervisory settings. In particular, it asked about two main researchers who most frequently gave instructions in research projects, among the official supervisor, internal faculty members (in the same university) other than the official supervisor, external faculty members (in different universities), and non-faculty researchers (typically, senior students or postdocs in the same lab). It also inquired into the frequency of instruction given by the two researchers. Based on these measurements, we prepared two sets of variables. The first set is the

[5] In STEM fields, a PhD degree is almost a requirement for professional academic careers currently. PhD graduates typically experience several years of a postdoc period before earning junior faculty positions. For example, 44% of Science PhD graduates in 2002-2006 became postdocs while only 6.2% obtained faculty positions immediately after graduation (Misu et al., 2010).

[6] Kobayashi (2015) used response weights based on gender, birth year, PhD field, student type, and university tier in order to adjust response bias, whereas this study does not, which makes some differences in the results between two papers.

frequency of instruction given by the four categories of researchers: 1) the official supervisor (*Official supervisor*), 2) internal faculty members (*Internal faculty*), 3) external faculty members (*External faculty*), and 4) non-faculty researchers (*Non-faculty*). Each variable takes a five-point scale, 0: never, 1: once a half year or less, 2: once a quarter, 3: once or twice a month, 4: once a week or more (Figure 1A). The second set consists of a single variable, the number of faculty members (i.e., excluding non-faculty researchers) engaged in PhD instruction once a month or more frequently (*#Faculty*). The variable takes a value of 0, 1, or 2 (Figure 1C).[7]

#### *4.2.2. Outcome of PhD training*

This study draws on three sets of outcome variables. The first set consists of three variables concerned with PhDs' careers. First, the survey asked whether the respondents had earned a degree by the time of the survey. We coded a dummy variable 1 if a degree was awarded and 0 otherwise (*Degree awarded*). Second, the survey inquired into several questions on the employment conditions of the respondents at the time of the survey.[8] We coded a dummy variable 1 if one had a job in an academic organization -- i.e., university or a public research organization -- and 0 otherwise (*Academic career*). Third, the survey asked the link between the job and the subject of PhD dissertations. We coded a dummy variable 1 if a respondent's job is related to his or her PhD dissertation and 0 otherwise (*Related job*).

The second set consists of two variables concerned with performance. 75% of PhDs were engaged in research jobs after graduation. For those who had research jobs, we measured the number of their scientific articles published until the time of the survey (*#Pub*). While most PhDs who obtained jobs in academia continued research, only 56% of those at non-academic jobs were engaged in research. To address this limitation for non-academic workers, we also measured the wage rate as a proxy of performance (*Wage rate*).

The final set of outcome variable consists of a single measure based on the subjective evaluation by the respondents. Namely, the survey inquired into PhD students' satisfaction with the program in a five-point scale ranging from 1: not satisfied to 5: satisfied (*PhD satisfaction*).

#### *4.2.3. Control variables*

The regression analyses control for several factors. We include three dummy variables corresponding to the student types (*regular PhD, professional PhD,* and *international PhD*) and seven dummy variables

---

[7] Note that the survey inquired into the first and the second instructors, and thus, both sets of variables lack precision. For the first set, the survey ignores third and fourth instructors, if any. We assume that their instruction frequency was negligible and coded the variables 0 if the category was not included in the first and second instructors. The second-set variable is right-censored. In addition, it overlooks the possibility that a student is supervised by, for example, two internal faculty members. In this regard, precisely speaking, the variable may be associated with the diversity of supervisors rather than their number.

[8] 4.5% of the respondents were not employed.

for PhD fields (*PhDs in Science, Engineering, Agriculture, Health, Humanity, Social Sci,* and *Others*). As a proxy of the performance of supervisors, we control for the university tier of degree-awarding universities. We grouped Japanese universities into four tiers on the basis of publication shares at the organization level and coded the top tier 4 and the bottom tier 1 (*Univ tier*).[9]

We also include several control variables for individual attributes. We control for the age (*Age*) and gender (*Female*) of the respondents. To proxy respondents' performance prior to PhD training, we include a dummy variable coded 1 if a respondent had a national PhD fellowship that is awarded on the basis of their performance before the PhD course (*Fellowship*).[10] We also control for respondents' motives to pursue PhD degrees at the time of enrollment. In particular, we include a dummy variable coded 1 if the motive was "to become an academic teacher or researcher" (*Academic motive*) and another dummy variable coded 1 if the motive was "to delay job hunting" (*Job motive*).

## 5. *Result*

Table 1 presents the descriptive statistics and correlation matrix of the variables. Concerning the career outcomes, 87% of the respondents were awarded PhD degrees by the time of the survey; 57% chose academic careers; 89% had jobs somewhat related to their PhD dissertations. The median count of publications is three, and the average wage rate is 2,200 JPY per hour. 80% of PhDs were satisfied with the training they received.

[9] University tier is based on the publication share of each university among all publications with Japanese addresses:>5% (tier=4), 1-5% (tier=3), 0.5-1% (tier=2), and <0.5% (tier=1). Note that university tier does not necessarily indicate university ranking.

[10] The national government offers a fellowship for three years. The selection is based on the applicant's performance before PhD (i.e., mostly during the master program).

## Table 1. Descriptive statistics and correlation matrix

| Variables | Mean | Std. Dev. | Min | Max | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 Degree awarded | 0.865 | 0.342 | 0.000 | 1.000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 Academic career | 0.574 | 0.495 | 0.000 | 1.000 | 0.077 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 Related job | 0.894 | 0.308 | 0.000 | 1.000 | 0.065 | 0.228 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 ln(#Pub) | 1.334 | 0.654 | 0.000 | 3.951 | 0.269 | 0.108 | 0.050 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 Wage rate | 2.214 | 1.576 | 0.000 | 17.308 | 0.027 | -0.211 | -0.011 | 0.031 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 PhD satisfaction | 4.116 | 1.025 | 1.000 | 5.000 | 0.173 | 0.049 | 0.107 | 0.113 | 0.002 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 Age | 38.338 | 8.494 | 27.000 | 67.000 | -0.116 | -0.134 | -0.030 | -0.022 | 0.385 | 0.042 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 Female | 0.276 | 0.447 | 0.000 | 1.000 | -0.081 | 0.099 | -0.019 | -0.069 | -0.088 | -0.014 | 0.064 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 Fellowship | 0.067 | 0.250 | 0.000 | 1.000 | 0.067 | 0.054 | 0.031 | 0.061 | -0.100 | 0.014 | -0.190 | -0.049 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 Job motive | 0.039 | 0.194 | 0.000 | 1.000 | -0.007 | -0.043 | -0.061 | -0.046 | -0.077 | -0.040 | -0.127 | -0.031 | 0.016 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 Academic motive | 0.374 | 0.484 | 0.000 | 1.000 | -0.007 | 0.277 | 0.056 | 0.083 | -0.223 | 0.004 | -0.121 | 0.014 | 0.080 | -0.031 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 Regular PhD | 0.515 | 0.500 | 0.000 | 1.000 | -0.039 | 0.076 | -0.006 | -0.084 | -0.263 | -0.099 | -0.462 | -0.051 | 0.203 | 0.110 | 0.080 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 Professional PhD | 0.338 | 0.473 | 0.000 | 1.000 | 0.002 | -0.154 | -0.017 | 0.044 | 0.479 | 0.024 | 0.552 | -0.019 | -0.189 | -0.130 | -0.201 | -0.737 | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 International PhD | 0.146 | 0.353 | 0.000 | 1.000 | 0.054 | 0.098 | 0.032 | 0.060 | -0.287 | 0.109 | -0.086 | 0.097 | -0.034 | 0.018 | 0.156 | -0.427 | -0.296 | | | | | | | | | | | | | |
| 15 PhD in Science | 0.175 | 0.380 | 0.000 | 1.000 | 0.083 | 0.015 | -0.034 | -0.030 | -0.149 | -0.012 | -0.213 | -0.078 | 0.159 | 0.024 | 0.034 | 0.185 | -0.200 | 0.006 | | | | | | | | | | | | |
| 16 PhD in Engineering | 0.235 | 0.424 | 0.000 | 1.000 | 0.116 | -0.134 | 0.008 | 0.115 | -0.024 | 0.085 | -0.026 | -0.194 | -0.010 | 0.065 | -0.052 | -0.061 | -0.008 | 0.097 | -0.255 | | | | | | | | | | | |
| 17 PhD in Agriculture | 0.065 | 0.247 | 0.000 | 1.000 | 0.050 | -0.008 | -0.008 | 0.041 | -0.069 | -0.006 | -0.026 | -0.013 | 0.042 | 0.025 | -0.014 | 0.000 | -0.034 | 0.046 | -0.121 | -0.146 | | | | | | | | | | |
| 18 PhD in Health | 0.289 | 0.454 | 0.000 | 1.000 | 0.150 | 0.054 | 0.024 | -0.027 | 0.251 | -0.074 | 0.061 | 0.081 | -0.094 | -0.055 | -0.119 | -0.119 | 0.243 | -0.156 | -0.293 | -0.354 | -0.169 | | | | | | | | | |
| 19 PhD in Humanity | 0.083 | 0.277 | 0.000 | 1.000 | -0.309 | 0.024 | -0.004 | -0.036 | -0.097 | -0.006 | 0.068 | 0.125 | -0.032 | -0.028 | 0.095 | 0.084 | -0.102 | 0.018 | -0.139 | -0.167 | -0.080 | -0.193 | | | | | | | | |
| 20 PhD in Social Sci | 0.090 | 0.287 | 0.000 | 1.000 | -0.175 | 0.021 | -0.009 | -0.084 | 0.009 | 0.021 | 0.123 | 0.022 | -0.038 | -0.020 | 0.074 | -0.046 | 0.002 | 0.062 | -0.145 | -0.175 | -0.083 | -0.201 | -0.095 | | | | | | | |
| 21 PhD in Others | 0.062 | 0.241 | 0.000 | 1.000 | -0.106 | 0.066 | 0.015 | -0.002 | -0.031 | -0.004 | 0.069 | 0.155 | -0.016 | -0.018 | 0.079 | -0.002 | 0.023 | -0.027 | -0.118 | -0.143 | -0.068 | -0.164 | -0.078 | -0.081 | | | | | | |
| 22 Univ tier | 2.267 | 1.162 | 1.000 | 4.000 | 0.063 | 0.035 | 0.033 | 0.054 | -0.066 | -0.019 | -0.194 | -0.108 | 0.221 | 0.051 | 0.068 | 0.176 | -0.173 | -0.017 | 0.157 | 0.094 | 0.045 | -0.153 | -0.037 | -0.073 | -0.036 | | | | | |
| 23 Official supervisor | 3.180 | 1.135 | 0.000 | 4.000 | 0.104 | 0.030 | 0.046 | 0.004 | -0.099 | 0.337 | -0.128 | -0.033 | 0.019 | 0.037 | 0.024 | 0.070 | -0.132 | 0.079 | 0.057 | 0.096 | 0.023 | -0.097 | -0.060 | -0.008 | -0.023 | -0.038 | | | | |
| 24 Internal faculty | 1.509 | 1.591 | 0.000 | 4.000 | 0.028 | 0.027 | 0.006 | -0.027 | 0.038 | 0.119 | -0.014 | 0.007 | -0.056 | 0.013 | -0.029 | -0.013 | -0.014 | 0.038 | -0.064 | -0.051 | -0.023 | 0.132 | -0.027 | 0.005 | -0.010 | -0.130 | 0.065 | | | |
| 25 External faculty | 0.342 | 0.951 | 0.000 | 4.000 | 0.012 | 0.048 | -0.016 | 0.044 | -0.031 | -0.028 | -0.026 | 0.008 | -0.004 | -0.009 | 0.028 | 0.058 | -0.007 | -0.073 | 0.040 | -0.037 | -0.030 | 0.009 | 0.028 | -0.013 | 0.001 | 0.018 | -0.170 | -0.293 | | |
| 26 Non-faculty | 0.704 | 1.407 | 0.000 | 4.000 | 0.049 | -0.011 | -0.008 | -0.005 | -0.082 | -0.024 | -0.192 | -0.045 | 0.133 | 0.056 | 0.012 | 0.127 | -0.158 | 0.032 | 0.130 | -0.011 | 0.061 | -0.012 | -0.067 | -0.094 | -0.037 | 0.177 | -0.015 | -0.401 | -0.101 | |
| 27 #Faculty | 1.249 | 0.643 | 0.000 | 2.000 | 0.106 | 0.045 | 0.019 | 0.003 | -0.029 | 0.248 | -0.112 | -0.025 | -0.021 | 0.034 | -0.011 | 0.059 | -0.091 | 0.038 | 0.011 | 0.003 | -0.013 | 0.073 | -0.075 | -0.031 | -0.023 | -0.094 | 0.499 | 0.631 | 0.113 | -0.261 |

Note: N = 5,052

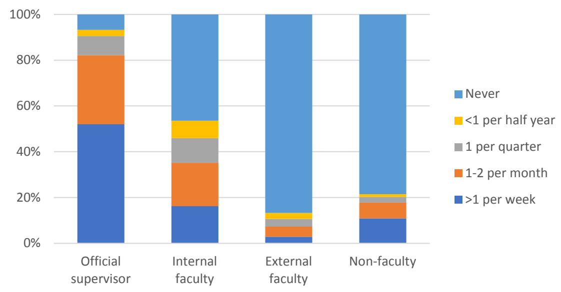
### *5.1. Supervisory setting*

As expected, the majority of the PhDs were mainly instructed by their official supervisors while some were given instruction mainly by other faculty or non-faculty members. About half of the PhDs were given secondary instruction by internal faculty members. The frequency of instruction varies considerably; while 60% of PhDs received weekly or more frequent instruction, 10% did so quarterly or less. Figure 1A illustrates the instruction frequency given by instructors' categories: 52% of PhDs received instruction from their official supervisors weekly or more frequently; 35% were instructed by internal faculty members at least monthly; 13% received any instruction by external faculty members and 21% by non-faculty researchers. Overall, 53% of PhDs received frequent instruction -- once a month or more frequent -- from a single faculty member (i.e., one of the official supervisor, internal faculty member, or external faculty member); 36% received frequent supervision from two of them, and 11% received no frequent supervision from faculty members.

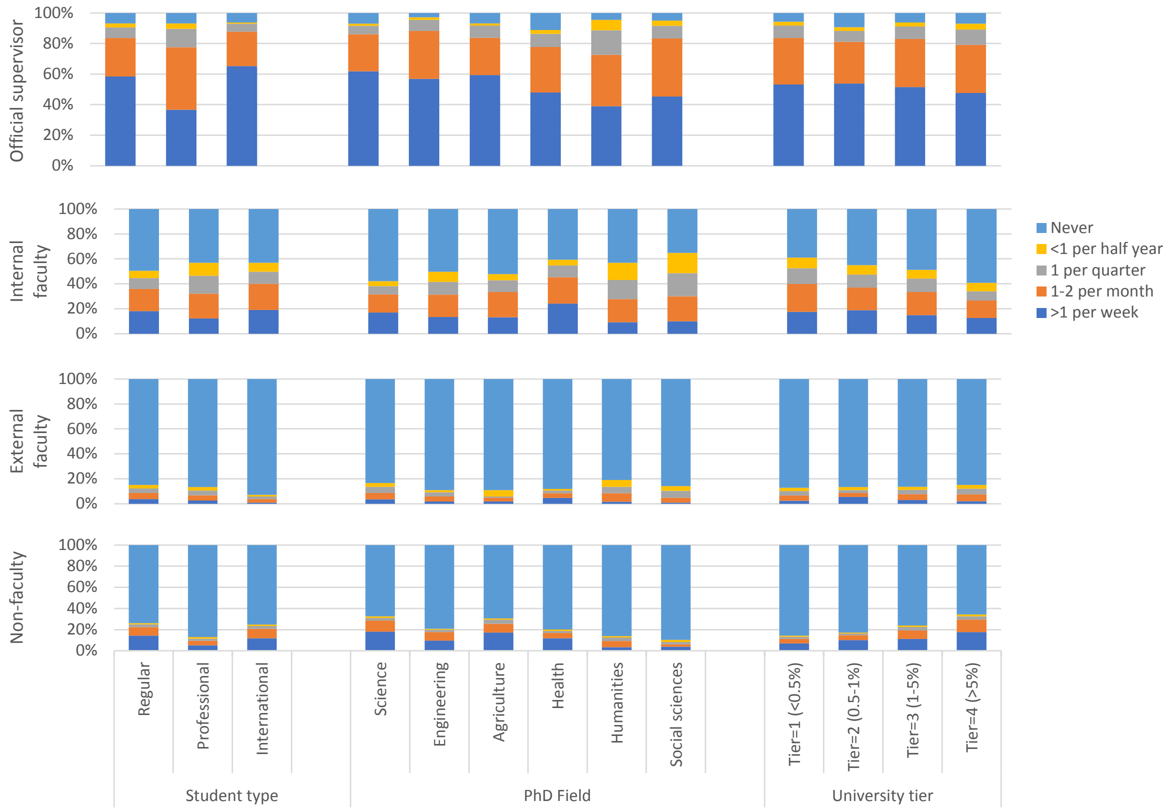
Figure 1B provides breakdowns by student types, PhD fields, and university tiers. To analyze the determinants of the supervisory settings systematically, Table 2 regress the supervisory settings on several contextual variables. Since the dependent variables are all ordinal, we draw on ordinal logistic regressions. Both descriptive and regression analyses indicate some noticeable patterns in the supervisory setting. Comparing student types, professional PhDs were less frequently instructed by official supervisors, presumably because they are less frequently present at the lab, and they were also less instructed by non-faculty researchers probably due to their higher social status. International PhDs were more often instructed by official supervisors and internal faculty members but less by external faculty members, perhaps because their network outside their main affiliation is limited. Comparing PhD fields, PhDs in Health less frequently received instruction by official supervisors but more frequently by internal faculty members. This may be because of the hierarchical chair system typical in the field, where the official supervisor delegates PhD supervision to junior lab members. Instruction by official supervisors was less frequent also in HASS, perhaps due to a less team-based nature of research activities in the field. Among university tiers, higher-tier universities were characterized by less frequent instruction by official supervisors but more frequent instruction by non-faculty researchers. This is probably because labs in higher-tier universities are larger and afford to use their lab members (e.g., senior students, postdocs) for PhD supervision.

**Figure 1. Supervisory Setting**

(A) Frequency by instructor category




(B) Frequency by instructor category - breakdown




(C) Frequently supervising faculty members

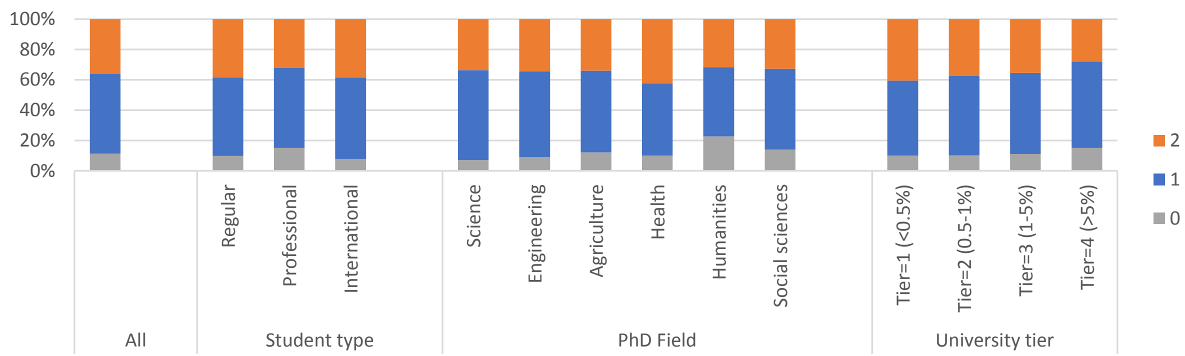


**Table 2. Prediction of supervisory setting (Ordinal logistic regression)**

| | Model 1 Official supervisor | | Model 2 Internal faculty | | Model 3 External faculty | | Model 4 Non-faculty | | Model 5 #Faculty | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Age | -.026*** | (.004) | -.002 | (.004) | -.007 | (.006) | -.043*** | (.007) | -.019*** | (.004) |
| Female | -.084 | (.066) | -.103 † | (.063) | .076 | (.099) | -.041 | (.087) | -.167* | (.066) |
| Fellowship | -.110 | (.119) | -.361** | (.124) | -.129 | (.174) | .416*** | (.121) | -.248* | (.115) |
| Regular PhD | | | | | | | | | | |
| Professional PhD | -.509*** | (.075) | -.192** | (.073) | .021 | (.116) | -.278* | (.110) | -.356*** | (.078) |
| International PhD | .339*** | (.097) | .243** | (.086) | -.811*** | (.170) | .115 | (.113) | .117 | (.090) |
| PhD in Science | | | | | | | | | | |
| PhD in Engineering | .031 | (.094) | .095 | (.091) | -.436** | (.135) | -.395*** | (.108) | -.018 | (.090) |
| PhD in Agriculture | .019 | (.136) | .154 | (.129) | -.498* | (.205) | .082 | (.147) | -.038 | (.130) |
| PhD in Health | -.391*** | (.093) | .657*** | (.090) | -.430** | (.132) | -.085 | (.107) | .296*** | (.089) |
| PhD in Humanity | -.816*** | (.119) | .139 | (.115) | .146 | (.161) | -.782*** | (.166) | -.465*** | (.124) |
| PhD in Social Sci | -.421*** | (.118) | .310** | (.111) | -.165 | (.171) | -.966*** | (.179) | -.163 | (.119) |
| PhD in Others | -.410** | (.133) | .277* | (.127) | -.190 | (.192) | -.493** | (.179) | -.045 | (.135) |
| Univ tier | -.189*** | (.026) | -.178*** | (.025) | .039 | (.038) | .274*** | (.033) | -.202*** | (.026) |
| Chi-squared stat | 376.292*** | | 187.878*** | | 58.710*** | | 388.648*** | | 199.787*** | |
| Log likelihood | -5530.903 | | -6650.746 | | -2774.724 | | -3448.492 | | -4494.770 | |
| N | 4802 | | 4809 | | 4817 | | 4814 | | 4817 | |

Note: Unstandardized coefficients (standard errors in parentheses). Two-tailed test. †p < .10; *p < .05; **p < .01; ***p < .001. *Regular PhD* and *PhD in Science* are the reference groups for student types and for PhD field respectively.

### *5.2. Determinants of training outcome*

#### *5.2.1. Career outcome*

We examine the effect of the supervisory settings on the possibility of earning a degree in time (Table 3). Model 1 shows that frequent supervisions by the official supervisor and by the external faculty members are significantly positively associated with degree attainment. Model 2, instead, uses *#Faculty* as the main independent variable. To distinguish the impact of having a single instructor and that of having a second instructor, Model 2 includes two corresponding dummy variables with #Faculty=1 as the reference group. The result shows that a lack of professional supervision is associated with failing to earning degrees, but that having multiple instructors has only insignificant impact. It is plausible that supervisors decided to give frequent instructions to PhDs who had seemed likely to earn degrees, so Models 3 and 4 control for PhDs' motives to pursue degrees. Indeed, PhDs whose motive was to delay job hunting are less likely to earn degrees, while those who aimed to attain academic jobs are more likely to do so. After controlling for these motives, the effect of the supervisory settings remains significant, implying that frequent supervision does increase the likelihood of earning degrees. We also ran the same model for several sets of subsamples, finding that the effect of the supervisory settings is rather consistent between student types, PhD fields, and university tiers. As to the control variables, the result suggests that young PhDs, PhDs with fellowship, and international PhDs are more likely to earn degrees than otherwise.

Second, Table 4 examines how the supervisory settings influence PhD's choice between academic and non-academic careers. As the dependent variable, *academic career*, is dichotomous, we use logistic regressions. Table 4A suggests that instructions by official supervisors and by external faculty members are positively associated (Model 1) -- or lack of it is negatively associated (Model 2) -- with academic career choice. Although PhDs who were not interested in academic careers might be unwilling to see supervisors frequently, the models have already controlled for PhD's motives, so the supervisory settings seem to influence the career choice. Because PhD degrees are often a precondition to obtain academic jobs, Models 3 and 4 additionally control for *degree awarded*. Though it somewhat weakens the effect of the supervisory settings, the magnitude of most coefficients remains unchanged, suggesting that supervisory settings affect the career choice independently from its influence on degree attainment. Among the control variables, the result finds that females are more likely to pursue academic careers than males. Professional PhDs, who had jobs, are less likely to pursue academic careers than regular PhDs because many of them continued their original jobs. On the other hand, international PhDs are more likely to pursue academic careers as many of them explicitly aimed at degrees for academic career development.

Since Table 4A indicates significant differences between PhD fields, Table 4B splits the sample by PhD fields into STEM (Science, Engineering, and Agriculture), Health, and HASS (Humanities and Social sciences). In STEM, non-faculty's supervision shows a significantly negative effect (Model 1). Frequent instruction by non-faculty researchers, presumably senior students and postdocs in the same lab, might imply that the lab was large and internal competition was severe, and thus, PhDs might find it difficult to pursue academic careers. In HASS, on the other hand, a lack of faculty's supervision shows a significantly negative effect (Model 6). This is perhaps because the less team-based nature of HASS research makes an instruction by a single faculty member all the more influential.

As the third measure of career outcomes, Table 5 examines how areas of jobs can be influenced by supervisory settings. Model 1 shows that the instruction by official supervisors is positively associated with job relatedness, implying that frequent instruction by supervisors reinforces PhDs' interest and encourages them to continue research in the same field. The model finds that *academic career* has a significantly positive effect because PhDs at academic jobs are obviously likely to continue related jobs. Thus, we split PhDs who chose academic jobs (Models 3 and 4) and PhDs who chose non-academic jobs (Models 5 and 6), to find that the effect of supervisory settings is significant only for the academic subsample.

Models 5 and 6 also show that PhDs in Engineering, Agriculture, and Health tend to engage in related jobs in industry. As these three fields are applied, this result might suggest that these fields are successfully transferring knowledge workers to industry, as designed. Interestingly, the models show that PhDs who intended to delay job hunting are likely to find jobs unrelated to PhD subjects. Thus, training for PhDs with such a motive may be ineffective in transferring knowledge workers to industry.

**Table 3. Prediction of degree awarded (Logistic regression)**

| | Model 1 | | Model 2 | | Model 3 | | Model 4 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Age | -.016** | (.006) | -.017** | (.006) | -.015* | (.006) | -.016** | (.006) |
| Female | -.136 | (.104) | -.143 | (.104) | -.130 | (.105) | -.136 | (.104) |
| Fellowship | .947*** | (.273) | .951*** | (.274) | .924*** | (.274) | .931*** | (.274) |
| Regular PhD | | | | | | | | |
| Professional PhD | .211 † | (.125) | .204 | (.125) | .212 † | (.126) | .206 | (.126) |
| International PhD | .851*** | (.165) | .822*** | (.163) | .811*** | (.166) | .779*** | (.165) |
| PhD in Science | | | | | | | | |
| PhD in Engineering | .274 | (.186) | .293 | (.185) | .307 † | (.186) | .322 † | (.185) |
| PhD in Agriculture | .167 | (.261) | .122 | (.257) | .193 | (.261) | .148 | (.257) |
| PhD in Health | .621*** | (.184) | .567** | (.182) | .619*** | (.184) | .562** | (.183) |
| PhD in Humanity | -2.220*** | (.174) | -2.184*** | (.172) | -2.280*** | (.176) | -2.249*** | (.174) |
| PhD in Social Sci | -1.613*** | (.176) | -1.601*** | (.174) | -1.663*** | (.178) | -1.653*** | (.176) |
| PhD in Others | -1.235*** | (.194) | -1.224*** | (.193) | -1.301*** | (.196) | -1.294*** | (.195) |
| Univ tier | .109** | (.042) | .098* | (.042) | .103* | (.042) | .092* | (.042) |
| Job motive | | | | | -.501* | (.237) | -.513* | (.235) |
| Academic motive | | | | | .257* | (.102) | .267** | (.101) |
| Official supervisor | .246*** | (.040) | | | .246*** | (.040) | | |
| Internal faculty | .060 † | (.036) | | | .064 † | (.036) | | |
| External faculty | .165** | (.056) | | | .165** | (.056) | | |
| Non-faculty | .001 | (.041) | | | .008 | (.042) | | |
| #Faculty=0 | | | -.644*** | (.129) | | | -.651*** | (.130) |
| #Faculty=1 | | | | | | | | |
| #Faculty=2 | | | .162 | (.106) | | | .169 | (.107) |
| Chi-squared stat | 746.997*** | | 736.271*** | | 756.285*** | | 745.811*** | |
| Log likelihood | -1550.253 | | -1561.804 | | -1542.589 | | -1553.273 | |
| N | 4800 | | 4817 | | 4792 | | 4804 | |

Note: Unstandardized coefficients (standard errors in parentheses). Two-tailed test. †p < .10; *p < .05; **p < .01; ***p < .001. *Regular PhD*, *PhD in Science*, and *#Faculty=1* are the reference groups for respective sets of independent variables.

**Table 4. Prediction of academic career choice (Logistic regression)**

(A) Base model

| | Model 1 | | Model 2 | | Model 3 | | Model 4 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Age | -.021*** | (.005) | -.020*** | (.005) | -.020*** | (.005) | -.019*** | (.005) |
| Female | .325*** | (.074) | .336*** | (.074) | .338*** | (.075) | .350*** | (.074) |
| Fellowship | .213 | (.136) | .184 | (.135) | .182 | (.136) | .153 | (.136) |
| Regular PhD | | | | | | | | |
| Professional PhD | -.313*** | (.086) | -.308*** | (.085) | -.328*** | (.086) | -.322*** | (.086) |
| International PhD | .280** | (.106) | .258* | (.105) | .241* | (.106) | .221* | (.105) |
| PhD in Science | | | | | | | | |
| PhD in Engineering | -.335*** | (.101) | -.323** | (.101) | -.347*** | (.102) | -.336*** | (.101) |
| PhD in Agriculture | .095 | (.144) | .069 | (.143) | .088 | (.145) | .063 | (.144) |
| PhD in Health | .540*** | (.101) | .536*** | (.100) | .517*** | (.102) | .514*** | (.101) |
| PhD in Humanity | .100 | (.137) | .135 | (.136) | .327* | (.144) | .362* | (.144) |
| PhD in Social Sci | .205 | (.135) | .232 † | (.134) | .344* | (.138) | .373** | (.137) |
| PhD in Others | .568*** | (.157) | .583*** | (.157) | .672*** | (.159) | .687*** | (.159) |
| Univ tier | .058* | (.029) | .052 † | (.029) | .053 † | (.029) | .047 | (.029) |
| Job motive | -.499** | (.160) | -.509** | (.160) | -.478** | (.161) | -.487** | (.160) |
| Academic motive | 1.119*** | (.069) | 1.125*** | (.069) | 1.113*** | (.070) | 1.118*** | (.069) |
| Degree awarded | | | | | .558*** | (.101) | .564*** | (.101) |
| Official supervisor | .059* | (.028) | | | .045 | (.029) | | |
| Internal faculty | .032 | (.024) | | | .029 | (.024) | | |
| External faculty | .114** | (.036) | | | .106** | (.037) | | |
| Non-faculty | -.045 † | (.026) | | | -.046 † | (.026) | | |
| #Faculty=0 | | | -.222* | (.104) | | | -.177 † | (.105) |
| #Faculty=1 | | | | | | | | |
| #Faculty=2 | | | .078 | (.068) | | | .070 | (.068) |
| Chi-squared stat | 634.000*** | | 620.651*** | | 664.694*** | | 652.177*** | |
| Log likelihood | -2957.850 | | -2972.398 | | -2942.503 | | -2956.635 | |
| N | 4792 | | 4804 | | 4792 | | 4804 | |

(B) Field breakdown

| | Model 1 STEM | | Model 2 STEM | | Model 3 Health | | Model 4 Health | | Model 5 HASS | | Model 6 HASS | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Official supervisor | .072 | (.047) | | | .067 | (.047) | | | .021 | (.071) | | |
| Internal faculty | -.051 | (.036) | | | .120** | (.041) | | | .044 | (.064) | | |
| External faculty | .026 | (.056) | | | .249*** | (.065) | | | .011 | (.093) | | |
| Non-faculty | -.132*** | (.037) | | | .061 | (.047) | | | -.034 | (.084) | | |
| #Faculty=0 | | | -.116 | (.174) | | | -.197 | (.197) | | | -.484* | (.204) |
| #Faculty=1 | | | | | | | | | | | | |
| #Faculty=2 | | | .124 | (.101) | | | .179 | (.122) | | | -.235 | (.171) |
| Chi-squared stat | 439.050*** | | 423.198*** | | 124.745*** | | 109.928*** | | 75.878*** | | 81.075*** | |
| Log likelihood | -1332.802 | | -1342.825 | | -875.494 | | -885.797 | | -525.423 | | -524.756 | |
| N | 2240 | | 2243 | | 1408 | | 1413 | | 842 | | 845 | |

Note: Unstandardized coefficients (standard errors in parentheses). Two-tailed test. †p < .10; *p < .05; **p < .01; ***p < .001. *Regular PhD*, *PhD in Science*, and *#Faculty=1* are the reference groups for respective sets of independent variables. In Table (B), the control variables are omitted for parsimony.

## Table 5. Prediction of job relatedness (Logistic regression)

| | Model 1<br>All | | Model 2<br>All | | Model 3<br>Academic | | Model 4<br>Academic | | Model 5<br>Non-academic | | Model 6<br>Non-academic | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Age | -.009 | (.007) | -.010 | (.007) | -.015 | (.013) | -.012 | (.013) | -.009 | (.009) | -.011 | (.009) |
| Female | -.320** | (.117) | -.316** | (.117) | -.081 | (.198) | -.019 | (.197) | -.426** | (.149) | -.421** | (.148) |
| Fellowship | .441 † | (.248) | .469 † | (.247) | 1.204* | (.604) | 1.208* | (.603) | .232 | (.287) | .282 | (.285) |
| Regular PhD | | | | | | | | | | | | |
| Professional PhD | .208 | (.140) | .225 | (.139) | -.477* | (.243) | -.483* | (.241) | .520** | (.172) | .521** | (.170) |
| International PhD | .205 | (.182) | .203 | (.180) | .738* | (.368) | .756* | (.367) | -.050 | (.225) | -.065 | (.222) |
| PhD in Science | | | | | | | | | | | | |
| PhD in Engineering | .423** | (.157) | .455** | (.155) | .450 | (.336) | .496 | (.335) | .405* | (.181) | .414* | (.179) |
| PhD in Agriculture | .154 | (.219) | .134 | (.217) | -.497 | (.347) | -.542 | (.347) | .567* | (.287) | .538 † | (.282) |
| PhD in Health | .375* | (.156) | .336* | (.154) | .612* | (.292) | .457 | (.288) | .367 † | (.189) | .364 † | (.187) |
| PhD in Humanity | .151 | (.220) | .120 | (.220) | .333 | (.374) | .236 | (.372) | .182 | (.286) | .144 | (.285) |
| PhD in Social Sci | .061 | (.208) | .077 | (.207) | .294 | (.374) | .277 | (.371) | -.033 | (.263) | -.024 | (.261) |
| PhD in Others | .416 | (.253) | .400 | (.252) | .731 † | (.438) | .646 | (.436) | .317 | (.323) | .297 | (.321) |
| Univ tier | .081 † | (.046) | .072 | (.046) | .173* | (.085) | .153 † | (.084) | .028 | (.056) | .026 | (.056) |
| Job motive | -.808*** | (.211) | -.799*** | (.210) | -.571 | (.446) | -.552 | (.446) | -.829*** | (.249) | -.809** | (.248) |
| Academic motive | -.076 | (.117) | -.077 | (.117) | .190 | (.187) | .214 | (.186) | -.270 † | (.150) | -.270 † | (.149) |
| Academic career | 1.586*** | (.115) | 1.593*** | (.114) | | | | | | | | |
| Official supervisor | .100* | (.043) | | | .204** | (.072) | | | .042 | (.053) | | |
| Internal faculty | -.018 | (.037) | | | -.043 | (.066) | | | .021 | (.046) | | |
| External faculty | -.078 | (.054) | | | -.001 | (.097) | | | -.099 | (.067) | | |
| Non-faculty | -.019 | (.041) | | | -.110 | (.073) | | | .041 | (.050) | | |
| #Faculty=0 | | | .163 | (.165) | | | .416 | (.322) | | | .076 | (.195) |
| #Faculty=1 | | | | | | | | | | | | |
| #Faculty=2 | | | .173 | (.110) | | | .462* | (.201) | | | .089 | (.134) |
| Chi-squared stat | 284.524*** | | 279.759*** | | 57.227*** | | 52.244*** | | 61.827*** | | 56.832*** | |
| Log likelihood | -1413.330 | | -1419.080 | | -511.399 | | -514.300 | | -869.655 | | -874.228 | |
| N | 4559 | | 4570 | | 2721 | | 2729 | | 1838 | | 1841 | |

Note: Unstandardized coefficients (standard errors in parentheses). Two-tailed test. †p < .10; *p < .05; **p < .01; ***p < .001. Regular PhD, PhD in Science, and #Faculty=1 are the reference groups for respective sets of independent variables.

#### *5.2.2. Performance*

Next, we examine the impact of supervisory settings on PhDs' performance drawing on two measurements. First, we use the publication count as the measure of scientific performance (Table 6). Since this is a count variable, we use negative binomial regressions. Model 1 shows that instruction by external faculty members is positively associated with the publication count, suggesting that an external information source has positive impact on scientific performance. We suspect that the contribution of supervision should differ by the scientific performance of the instructors, so Models 3 and 4 add interaction terms of supervisory settings and the university tier. Model 3 finds positive interaction effects with instructions by official supervisors and by internal faculty members, suggesting that their instructions are effective only in high-tier universities. Similarly, Model 4 finds a positive interaction effect with instruction by multiple faculty members, suggesting that multiple instructors are effective only in high-tier universities.

Concerning control variables, Table 6 shows that female PhDs publish less than male PhDs. Fellowship is associated with more publications. Professional PhDs publish more than regular PhDs, perhaps because they have longer academic careers before enrolling in PhD programs. International PhDs also perform better than regular PhDs. Academic motive shows significantly positive coefficients and job motive negative coefficients, suggesting that scientific performance is predictable to some extent by their initial motives for PhD degrees.

As publication performance may not be the best measure of non-academic performance, we also draw on the wage rate as a proxy of performance for a subsample of PhDs who found jobs outside academia (Table 7). Though Models 1 and 2 found no significant effect of supervisory settings, Models 3 and 4 show significant interaction effects with the university tier, similarly to Table 6, suggesting that instructions by official supervisors or by internal faculty members are effective only in high-tier universities. The wage rate can be determined on the basis of publication performance if one's job is research, so Models 5 and 6 additionally control for publication count using a subsample of non-academic PhDs whose job is research, which finds even clearer interaction effects.

As for control variables, age has a significantly positive effect because the salary system in Japan is often seniority-based. Females earn less than males. Professional PhDs earn more than regular PhDs for their supposedly higher skills and longer professional experience. International PhDs earn less than regular PhDs, even though the former exceeds the latter in publication performance. This is partly because the majority of international PhDs found jobs outside Japan, where the salary standard is lower. Academic motive is negatively associated with the wage rate in non-academia, suggesting that those who initially intended to pursue academic careers but ended in non-academic careers earn less than those who did not have such initial intention.

## Table 6. Prediction of publication performance (Negative binomial regression)

| | Model 1 | | Model 2 | | Model 3 | | Model 4 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Age | .001 | (.002) | .002 | (.002) | .001 | (.002) | .002 | (.002) |
| Female | -.110** | (.034) | -.109** | (.034) | -.111*** | (.034) | -.110** | (.034) |
| Fellowship | .210*** | (.052) | .204*** | (.052) | .212*** | (.053) | .208*** | (.052) |
| Regular PhD | | | | | | | | |
| Professional PhD | .212*** | (.041) | .218*** | (.041) | .214*** | (.041) | .218*** | (.041) |
| International PhD | .261*** | (.044) | .243*** | (.044) | .265*** | (.044) | .247*** | (.044) |
| PhD in Science | | | | | | | | |
| PhD in Engineering | .172*** | (.045) | .170*** | (.045) | .167*** | (.045) | .166*** | (.045) |
| PhD in Agriculture | .196** | (.065) | .185** | (.065) | .192** | (.065) | .182** | (.065) |
| PhD in Health | .105* | (.046) | .112* | (.046) | .104* | (.046) | .112* | (.046) |
| PhD in Humanity | .092 | (.059) | .108 † | (.059) | .095 | (.059) | .107 † | (.059) |
| PhD in Social Sci | -.104 † | (.060) | -.105 † | (.060) | -.101 † | (.060) | -.103 † | (.060) |
| PhD in Others | .099 | (.065) | .102 | (.065) | .100 | (.065) | .101 | (.065) |
| Univ tier | .033* | (.013) | .033** | (.013) | -.063 | (.041) | .017 | (.017) |
| Job motive | -.170* | (.080) | -.175* | (.080) | -.168* | (.080) | -.168* | (.080) |
| Academic motive | .148*** | (.029) | .152*** | (.029) | .153*** | (.029) | .155*** | (.029) |
| Official supervisor | -.020 | (.013) | | | -.064* | (.029) | | |
| Internal faculty | .000 | (.011) | | | -.044 † | (.024) | | |
| External faculty | .039* | (.016) | | | -.006 | (.036) | | |
| Non-faculty | -.010 | (.012) | | | -.021 | (.029) | | |
| #Faculty=0 | | | .008 | (.045) | | | .106 | (.104) |
| #Faculty=1 | | | | | | | | |
| #Faculty=2 | | | .003 | (.030) | | | -.136* | (.067) |
| Univ tier x Official supervisor | | | | | .018 † | (.011) | | |
| Univ tier x Internal faculty | | | | | .019* | (.009) | | |
| Univ tier x External faculty | | | | | .019 | (.014) | | |
| Univ tier x Non-faculty | | | | | .005 | (.010) | | |
| Univ tier x #Faculty=0 | | | | | | | -.039 | (.038) |
| Univ tier x #Faculty=2 | | | | | | | .061* | (.026) |
| Chi-squared stat | 167.356*** | | 154.445*** | | 175.271*** | | 162.797*** | |
| Log likelihood | -8294.305 | | -8318.113 | | -8290.348 | | -8313.937 | |
| N | 3563 | | 3572 | | 3563 | | 3572 | |

Note: Unstandardized coefficients (standard errors in parentheses). Two-tailed test. †$p < .10$; *$p < .05$; **$p < .01$; ***$p < .001$. Regular PhD, PhD in Science, and #Faculty=1 are the reference groups for respective sets of independent variables.

## Table 7. Prediction of wage rate for non-academic PhD sample (Ordinary least squares)

| | Model 1 | | Model 2 | | Model 3 | | Model 4 | | Model 5 | | Model 6 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Age | .057*** | (.005) | .058*** | (.005) | .057*** | (.005) | .057*** | (.005) | .058*** | (.007) | .057*** | (.007) |
| Female | -.313*** | (.088) | -.306*** | (.088) | -.315*** | (.088) | -.306*** | (.088) | -.530*** | (.124) | -.523*** | (.124) |
| Fellowship | -.044 | (.155) | -.038 | (.155) | -.042 | (.155) | -.033 | (.154) | -.077 | (.186) | -.082 | (.184) |
| Regular PhD | | | | | | | | | | | | |
| Professional PhD | .633*** | (.092) | .628*** | (.091) | .642*** | (.092) | .633*** | (.091) | .470*** | (.130) | .475*** | (.127) |
| International PhD | -.482*** | (.137) | -.478*** | (.137) | -.477*** | (.137) | -.474*** | (.137) | -.599** | (.198) | -.603** | (.197) |
| PhD in Science | | | | | | | | | | | | |
| PhD in Engineering | .062 | (.102) | .064 | (.102) | .060 | (.102) | .064 | (.101) | -.027 | (.141) | -.008 | (.139) |
| PhD in Agriculture | -.331* | (.152) | -.331* | (.152) | -.338* | (.152) | -.331* | (.152) | -.313 | (.209) | -.309 | (.209) |
| PhD in Health | .767*** | (.107) | .774*** | (.106) | .777*** | (.107) | .783*** | (.106) | .483** | (.155) | .461** | (.154) |
| PhD in Humanity | -.824*** | (.174) | -.836*** | (.174) | -.809*** | (.174) | -.835*** | (.174) | -.913*** | (.229) | -.911*** | (.229) |
| PhD in Social Sci | -.153 | (.158) | -.146 | (.157) | -.125 | (.158) | -.124 | (.157) | -.220 | (.214) | -.202 | (.213) |
| PhD in Others | -.330† | (.186) | -.331† | (.186) | -.330† | (.186) | -.335† | (.185) | -.458† | (.241) | -.449† | (.240) |
| Univ tier | .062* | (.031) | .064* | (.031) | -.136 | (.098) | .024 | (.041) | -.068 | (.132) | -.033 | (.055) |
| Job motive | -.150 | (.161) | -.153 | (.161) | -.139 | (.161) | -.141 | (.160) | -.187 | (.250) | -.185 | (.250) |
| Academic motive | -.261** | (.087) | -.272** | (.087) | -.263** | (.087) | -.276** | (.087) | -.237* | (.112) | -.262* | (.112) |
| Pub | | | | | | | | | .040** | (.015) | .039* | (.015) |
| Official supervisor | -.015 | (.030) | | | -.119† | (.067) | | | .060 | (.101) | | |
| Internal faculty | .034 | (.025) | | | -.051 | (.053) | | | -.142† | (.077) | | |
| External faculty | -.024 | (.040) | | | -.045 | (.092) | | | -.008 | (.125) | | |
| Non-faculty | .004 | (.028) | | | .028 | (.062) | | | -.046 | (.091) | | |
| #Faculty=0 | | | .055 | (.106) | | | .243 | (.237) | | | -.124 | (.319) |
| #Faculty=1 | | | | | | | | | | | | |
| #Faculty=2 | | | .120 | (.074) | | | -.208 | (.158) | | | -.354 | (.221) |
| Univ tier x Official supervisor | | | | | .046† | (.026) | | | .006 | (.037) | | |
| Univ tier x Internal faculty | | | | | .040† | (.022) | | | .073* | (.030) | | |
| Univ tier x External faculty | | | | | .008 | (.037) | | | -.006 | (.051) | | |
| Univ tier x Non-faculty | | | | | -.007 | (.022) | | | .006 | (.032) | | |
| Univ tier x #Faculty=0 | | | | | | | -.080 | (.092) | | | .027 | (.121) |
| Univ tier x #Faculty=2 | | | | | | | .152* | (.064) | | | .232** | (.087) |
| F Test | 47.837*** | | 53.639*** | | 39.620*** | | 48.284*** | | 17.819*** | | 21.314*** | |
| Adjusted R-squared | .319 | | .318 | | .320 | | .321 | | .277 | | .276 | |
| N | 1803 | | 1805 | | 1803 | | 1805 | | 1011 | | 1013 | |

Note: Unstandardized coefficients (standard errors in parentheses). Two-tailed test. †p < .10; *p < .05; **p < .01; ***p < .001. Regular PhD, PhD in Science, and #Faculty=1 are the reference groups for respective sets of independent variables.

**Table 8. Prediction of PhD's satisfaction (Ordinal logistic regression)**

| | Model 1 | | Model 2 | |
|---|---|---|---|---|
| Age | .016*** | (.004) | .011** | (.004) |
| Female | -.023 | (.065) | -.042 | (.064) |
| Fellowship | .282* | (.116) | .255* | (.115) |
| Regular PhD | | | | |
| Professional PhD | .459*** | (.077) | .354*** | (.076) |
| International PhD | .589*** | (.093) | .599*** | (.092) |
| PhD in Science | | | | |
| PhD in Engineering | .262** | (.091) | .262** | (.090) |
| PhD in Agriculture | -.133 | (.127) | -.108 | (.126) |
| PhD in Health | -.249** | (.090) | -.325*** | (.088) |
| PhD in Humanity | .176 | (.120) | .124 | (.119) |
| PhD in Social Sci | .176 | (.120) | .125 | (.118) |
| PhD in Others | .101 | (.133) | .051 | (.132) |
| Univ tier | .026 | (.025) | .011 | (.025) |
| Job motive | -.495*** | (.140) | -.460** | (.140) |
| Academic motive | -.088 | (.062) | -.078 | (.061) |
| Academic career | .196*** | (.060) | .192** | (.059) |
| Official supervisor | .574*** | (.027) | | |
| Internal faculty | .220*** | (.021) | | |
| External faculty | .207*** | (.032) | | |
| Non-faculty | .136*** | (.023) | | |
| #Faculty=0 | | | -1.297*** | (.092) |
| #Faculty=1 | | | | |
| #Faculty=2 | | | .455*** | (.060) |
| Chi-squared stat | 707.569*** | | 466.210*** | |
| Log likelihood | -5648.357 | | -5784.722 | |
| N | 4787 | | 4798 | |

Note: Unstandardized coefficients (standard errors in parentheses). Two-tailed test. †p < .10; *p < .05; **p < .01; ***p < .001. Regular PhD, PhD in Science, and #Faculty=1 are the reference groups for respective sets of independent variables.

#### *5.2.3. PhD Satisfaction*

Finally, Table 8 predicts PhDs' satisfaction with PhD programs. As the dependent variable is ordinal, we use ordinal logistic regressions. Both Models 1 and 2 show that frequent supervision significantly increases the degree of satisfaction. Unlike in the previous sections, instruction even by non-academic researchers contributes to PhDs' satisfaction. The effect is almost universal across PhD fields and university tiers.

## *6. Discussions*

As the modern society is increasingly becoming knowledge-driven, high-skilled knowledge workers are crucial for the sustainable development of the society (Bozeman et al., 2001). Although postgraduate education is playing a pivotal role in this regard, it has not necessarily been successful in producing human capital that meets the societal needs (Cyranoski et al., 2011; Gould, 2015). Issues in academic training might be attributable to gaps both in policy practices and in theories between higher education and scientific production, but empirical constraints are also responsible. That is, poor access to the inside of academic labs coupled with difficulty in identifying early careers of PhD graduates have been undermining our understanding on academic training. To fill in these limitations, this study aims to illustrate PhD supervisory settings in the Japanese context and investigate their impact on several outcome aspects, drawing on the national survey of a cohort of 5,000 PhD graduates from Japanese universities.

The result first shows that most PhDs received instructions indeed by their official supervisors, and that half of them received additional instruction by internal faculty members. The frequency of instruction has a substantial variation; the majority received weekly instruction but some less than quarterly. Some PhDs received instruction by non-faculty members, such as senior students and postdocs. Overall, a great deal of variation is observed in the PhD supervisory setting both in quantity and in quality.

We find that these variations produce significant differences in training outcome. In terms of career outcome, the result suggests that frequent supervision by faculty members (but not by non-faculty researchers) increases the likelihood of attaining degrees and finding jobs related to dissertation subjects. Successfully earning degrees is obviously desirable and finding jobs at least somewhat related to PhD research subjects also seems efficient. In this regard, recent policies in Japan might have created an undesirable situation in that they have allowed over-concentration of PhDs in a small number of labs, where PhD supervisors can spare insufficient time for the supervision of each PhD student (Shibayama and Baba, 2015). Indeed, our result shows that instruction by faculty members is significantly less frequent in higher-tier universities. Therefore, it is advisable to adequately control the number of PhDs that a supervisor can actually supervise. The result also suggests that frequent supervision decreases the likelihood of choosing non-academic careers. Given that modern higher education system is expected to supply PhDs both to academic and non-academic sectors, this result implies that training systems for academic and non-academic sectors might need to be differentiated (e.g., distinct courses, training by practitioners for the latter).

Concerning the performance outcome, the result finds that the frequent supervision by internal faculty members increases publication performance as well as the wage rate only in high-tier universities. In low-tier universities, on the other hand, frequent supervision does not make effective improvement in graduates' performance. This is potentially because training effect on performance is contingent to supervisors' scientific capabilities. This result also points to the necessity for faculty members to allocate sufficient time and resources for academic training in high-tier universities.

Finally, the result suggests that frequent supervision both by faculty members and by non-faculty researchers increases PhDs' satisfaction. This is the only outcome that is positively associated with instruction by non-faculty researchers. This implies that PhDs can be satisfied even when their performance is not improved. In this regard, PhDs' subjective evaluation needs to be cautiously interpreted when used for policymaking purposes.

These results warrant some reservations. The sample specificity restricts the generalizability of the findings, as postgraduate education systems obviously differ by country. A few sources of endogeneity are concerned. The measurements of the key variables may need improvement. More detailed analyses on the organizational setting of labs may be informative. Training effect on longer-term performance is also of interest. We plan to conduct follow-up surveys of the same cohort of PhDs, whereby we expect to address part of these issues.

**References**


Agarwal, R., Ohyama, A. 2012. Industry or academia, basic or applied? Career choices and earnings trajectories of scientists. ***Management Science***, 59: 950-970.

Allison, P. D., Long, J. S. 1990. Departmental effects on scientific productivity. ***American Sociological Review***, 55: 469-478.

Baldi, S. 1995. Prestige determinants of first academic job for new sociology PhDs 1985-1992. ***Sociological Quarterly***, 36: 777-789.

Bozeman, B., Dietz, J., Gaughan, M. 2001. Scientific and technical human capital: An alternative model for research evaluation. ***International Journal of Technology Management***, 22: 716-740.

Campbell, R. A. 2003. Preparing the next generation of scientists: The social process of managing students. ***Social Studies of Science***, 33: 897-927.

Crane, D. 1965. Scientists at major and minor universities - a study of productivity and recognition. ***American Sociological Review***, 30: 699-714.

Cyranoski, D., Gilbert, N., Ledford, H., Nayar, A., Yahia, M. 2011. The PhD factory. ***Nature***, 472: 276-279.

Debackere, K., Rappa, M. A. 1995. Scientists at major and minor universities - mobility along the prestige continuum. ***Research Policy***, 24: 137-150.

Delamont, S., Parry, O., Atkinson, P. 1997. Critical mass and pedagogic continuity: Studies in academic habitus. ***British Journal of Sociology of Education***, 18: 533-549.

Delamont, S., Atkinson, P. 2001. Doctoring uncertainty: Mastering craft knowledge. ***Social Studies of Science***, 31: 87-107.

Ehara, T., Umakoshi, T. 2004. ***Reform of graduate education in Japan***. Tokyo: Toshindo.

Gaughan, M., Bozeman, B. 2002. Using curriculum vitae to compare some impacts of NSF research grants with research center funding. ***Research Evaluation***, 11: 17-26.

Geuna, A. 2015. ***Global mobility of research scientists: The economics of who goes where and why***. San Diego: Academic Press.

Gould, J. 2015. How to build a better PhD. ***Nature***, 528: 22-25.

Hackett, E. J. 1990. Science as a vocation in the 1990s - the changing organizational culture of academic science. ***Journal of Higher Education***, 61: 241-279.

Heinze, T., Shapira, P., Rogers, J. D., Senker, J. M. 2009. Organizational and institutional influences on creativity in scientific research. ***Research Policy***, 38: 610-623.

Kato, M., Kanegae, Y., Chayama, H. 2012. Doctoral graduates survey 2011: Analysis on research training and education in doctoral programs in Japanese university, ***NISTEP Research Material***, Vol. 217. Tokyo: NISTEP.

Knorr-Cetina, K. 1999. ***Epistemic cultures : How the sciences make knowledge***. Cambridge, MA: Harvard University Press.

Kobayashi, Y. 2015. First report of Japan doctoral human resource profiling: FY2012 doctoral graduates cohort, ***NISTEP REPORT***, Vol. 165. Tokyo: NISTEP.

Lariviere, V. 2012. On the shoulders of students? The contribution of phd students to the advancement of knowledge. ***Scientometrics***, 90: 463-481.

Latour, B., Woolgar, S. 1979. ***Laboratory life: The construction of scientific facts***. Princeton, NJ: Princeton University Press.

Long, J. S., Allison, P. D., McGinnis, R. 1979. Entrance into the academic career. ***American Sociological Review***, 44: 816-830.

Long, J. S., McGinnis, R. 1985. The effects of the mentor on the academic career. ***Scientometrics***, 7: 255-280.

Mainhard, T., Van Der Rijst, R., Van Tartwijk, J., Wubbels, T. 2009. A model for the supervisor-doctoral student relationship. ***Higher Education***, 58: 359-373.

Marsh, H. W., Rowe, K. J., Martin, A. 2002. PhD students' evaluations of research supervision - issues, complexities, and challenges in a nationwide australian experiment in benchmarking universities. ***Journal of Higher Education***, 73: 313-348.

MEXT. 2015. ***Postgraduate Education Reform for the Future***. Tokyo: MEXT.

Misu, T., Horoiwa, A., Chayama, S. 2010. Career paths of recent doctoral graduates in science, ***NISTEP Research Material***, Vol. 184. Tokyo: NISTEP.

Morichika, N., Shibayama, S. 2016. Use of dissertation data in science policy research. ***Scientometrics***, 108: 221-241.

Morrison, E., Rudd, E., Zumeta, W., Nerad, M. 2011. What matters for excellence in PhD programs? Latent constructs of doctoral program quality used by early career social scientists. ***Journal of Higher Education***, 82: 535-+.

National Research Council. 1998. Trends in the early careers of life scientists. Washington, DC: National Academy Press.

Owen-Smith, J. 2001. Managing laboratory work through skepticism: Processes of evaluation and control. ***American Sociological Review***, 66: 427-452.

Pelz, D. C., Andrews, F. M. 1966. ***Scientists in organizations***. New York: Wiley.

Roach, M., Sauermann, H. 2010. A taste for science? PhD scientists' academic orientation and self-selection into research careers in industry. ***Research Policy***, 39: 422-434.

Salonius, A. 2008. ***Working in the lab: Social organization of research and training in biomedical research labs in Canada and its relationship to research funding***. McGill University, Quebec, Canada.

Shibayama, S., Baba, Y. 2015. Impact-oriented science policies and scientific publication practices: The case of life sciences in Japan. ***Research Policy***, 44: 936-950.

Shibayama, S., Baba, Y., Walsh, J. P. 2015. Organizational design of university laboratories: Task allocation and lab performance in Japanese bioscience laboratories. ***Research Policy***, 44: 610–622.

Stephan, P. E. 2012. ***How economics shapes science***. Cambridge, MA: Harvard University Press.

＜謝辞＞

「博士人材追跡調査」に御協力頂いた皆様には、この場を借りて改めてお礼申し上げる。本研究の成果を科学技術・学術政策の改善につなげることで、感謝の気持ちに変えたいと考えている。

本調査における博士課程の指導状況の把握については、平成 26 年度「博士人材追跡調査」助言委員会において、濱中淳子委員（独立行政法人大学入試センター, 当時）からご助言を頂いたものである。これにより不透明であった日本の博士課程での研究指導状況とそのインパクトについて検証出来たことは、大きな成果であったと考えられる。この場を借りて改めてお礼を申し上げたい。

DISCUSSION PAPER No.150

博士課程での研究指導状況とインパクトー「博士人材追跡調査」による総合的な分析ー

2016 年 7 月

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第1調査研究グループ
柴山創太郎, 小林淑恵

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 中央合同庁舎第 7 号館 東館 16 階
TEL: 03-3581-2395 FAX: 03-3503-3996

Impact of PhD Supervising Setting: A Comprehensive Analysis based on
"Japan Doctoral Human Resource Profiling, JD-Pro"

July 2017

Sotaro SHIBAYAMA and Yoshie KOBAYASHI

1stPolicy-Oriented Research Group
National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP)
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), Japan

http://doi.org/10.15108/dp150

NISTEP
NATIONAL INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

http://www.nistep.go.jp